

行政視察報告書

平成26年10月2日

委員会名		厚生文教常任委員会
参加者	委員長	木村信市
	副委員長	楊隆子
	委員	植田理都子 鈴木敦子 安藤孝雄 小松久信 木村正彦 武松忠 原田敏司
期間		平成26年7月15日(火)～17日(木)
視察地、 調査項目 及び概要	北海道 千歳市	<p>1. 子育て総合支援センターについて</p> <p>千歳市では、子育て支援を市の重点施策の一つとして積極的に推進するために、平成17年3月に策定された新たな子育て支援計画である「千歳市子育て支援計画」の中で、地域における子育て支援の拠点施設の整備を主要事業として位置付け進めてきた。</p> <p>本計画に基づき、平成20年4月に開設したのが千歳市子育て総合支援センター「ちとせっこセンター」である。</p> <p>同センターは、保育所整備による保育サービスの充実、児童館及び学童整備による児童健全育成の推進、地域子育て支援センター整備による地域支援の充実、子育て支援情報の一元管理による情報機能の充実、拠点施設としてコーディネート機能構築による子育て環境の充実を目的とし、保育所・児童館・学童クラブ・地域子育て支援センター・市民協働事業による「つどいの広場」の機能を持つ複合施設である。</p> <p>「同センター」設置後の効果としては、「つどいの広場」では、利用者がスタッフとの関わりを通して、子育ての不安や悩み、負担感を解消することができる場となっていること、「児童館」では、小学校の下校後、自宅に帰宅せずに、ランドセルを背負ったままに来館できる「ランドセル来館」を導入したことで、一時的に昼間保護者がいない場合などに利用できる場を提供し、児童が遊びや宿題を行うことができる場となっていること、また、子育て支援の拠点施設として、各関係機関との連携により、さまざまな子育て情報の共有が可能になったことなどが挙げられる。</p> <p>今後の課題としては、転入転出の多い千歳市における子育て家庭の悩みを的確に捉え、地域支援の充実を図ること、平成25年3月27日に開設した「げんきっここどもセンター」を含め、3箇所となった地域子育て支援センターの事業内容、事業体制を確認し、連携を深めること、複合施設としての事業を創意工夫し、さらなる事業展開を目指すことなどが挙げられている。</p>
	北海道 小樽市	<p>1. 新市立病院について</p> <p>小樽市では、地域の中核医療を担う「市立小樽病院」と脳神経外科、循環器内科等を専門とした「小樽市立脳・循環器・こころの医療センター」があるが、いずれも老朽化が進み、医師、看護師の充足もできず、また、市立病院が二つに分かれていることによる非効率性から経営的にも大変厳しい状況にあった。</p> <p>そのため、二つの市立病院を質の高いより効率的な新病院として統合</p>

することにより、地域医療を守り、財政負担の軽減を図る目的から統合新築事業を推進している。

新市立病院は、地下1階・地上7階建て、病床数388床で平成26年12月1日の開院予定となっている。

地域医療における新市立病院が担う役割としては、ハイブリッド手術室、PET-CT装置、放射線治療装置の整備などによる、他の医療機関では対応が困難な患者の受け入れなどが挙げられる。

診療の三つの柱として、がん診療、脳・神経疾患診療、心・血管疾患診療を掲げており、二つの特性としては「他の医療機関で担うことのできない疾患の診療」と「地域医療連携センター機能」があり、地域医療の中心的役割を果たすこととしている。

病院事業の経営状況については、平成19年頃には、経営の悪化に伴い医師が減少したが、平成21年度の地方公営企業法全部適用を機に札幌医科大学教授を病院事業管理者に抜てきし、管理者の関係機関への働きかけや医師の離職対策としての手当の新設などにより、現在は一定数の医師を確保しており、平成25年度には、市立病院改革プランの最終目標であった「地方財政上の資金不足解消」を達成した。

今後は、業務のスリム化とアウトソーシングによる人件費の削減や運営体制マニュアルの整備などの「新市立病院への着実な準備」、新規入院患者の増加の取組や紹介・逆紹介の拡大などの「地域連携の推進」、医師が学会などへ参加しやすい体制づくりや資格等取得支援などの「職員等の育成・教育」を目標としている。

1. 旭川市民文化会館について

旭川市民文化会館は、昭和50年に開館した多目的施設であり、旭川市の文化活動の拠点となる建築物である。

同年2月2日には、旭川市民文化会館条例に基づき旭川市民文化会館運営審議会が発足し、会館の利用状況や運営などについて審議が行われている。平成9年には、旭川市民文化会館自主制作事業として、子供たちの小劇場公演連絡協議会が企画・構成を行っている「こども芸術劇場」が設置され、毎年コンサートや演劇、ワークショップなど、様々なイベントが開催されている。

館内はホワイエ・大ホール・小ホール・展示室・会議室などがある。

大ホールは、演劇、音楽、舞踊、公演等に利用されており、オーケストラピット、反響板が設置されている。通常は、1,546人の収容が可能であり、オーケストラピットが設置されている場合は1,410人の収容となる。大ホール用の附属の楽屋は全部で第1～第4までの4部屋あり、一番大きい楽屋は20人まで利用が可能である。

この大ホールでは、平成25年度に初めて演奏会中に火災が発生したことを想定した市民参加型の公開避難訓練を実施し、緊急時の避難経路等を確認し、市民も含めての情報の共有を図った。

小ホールは、318人まで収容が可能であり、スクリーン、反響板が設置されている。楽屋は、第5～第7までの全3部屋が小ホール用として機能している。

旭川市では、市民による自主的な文化芸術活動が盛んに行われてきたが、その一方で、平成19年度に実施した市民アンケートでは、旭川市が「文化芸術活動の盛んなまち」だと思わない又はあまり思わないとの回答が約6割に達する状況にあり、文化芸術活動が市民に十分に認識されていないことが把握された。このような状況のもと、平成27年度までを計画期間とする、「文化芸術振興基本計画」を策定し、「文化芸術活動に関する情報の提供」、「子どもたちに対する文化芸術活動の充実」、「資金的援助による文化芸術活動の支援」などに力を入れることで、更なる文化芸術活動の促進を目指している。

北海道
旭川市